



2018年度年度SGH成果発表会の開催

2018年3月11日（月）に1年から5年生が参加して、福山芸術文化ホールリーデンローズにおいて以下のような日程で「2018年度 SGH 成果発表会」を行いました。

1. 場所 福山芸術文化ホールリーデンローズ（広島県福山市松浜町二丁目1番10号）
2. 日程
 - ①開式行事
 - ②「体験グローバル」課題研究発表
 - ③「体験グローバル」・「スーパーグローバル」 タイ研修報告
 - ④イオンワンパーセントクラブ 「アジア ユースリーダーズ」 報告
 - ⑤広島県 「グローバル未来塾 in ひろしま」 報告
 - ⑥「提言I」課題研究発表
 - ⑦「提言I」・「スーパーグローバル」 オーストラリア研修 報告
 - ⑧ご講評
 - ⑨閉式行事

当日は、保護者や教育関係者など多数の出席をいただき、盛大に開催することができました。

「体験グローバル」課題研究発表

「体験グローバル」では、5名もしくは6名で編成した班体制で、昨年7月から課題研究を進めてきました。1月には「クラス発表会」を実施し、その発表会を受けて選出された5つの班が代表として発表を行いました。発表を行った班の研究題目は以下の通りです。

- ① 食品ロスを減らす
- ② 世界の貧富をなくすために ～経済発展に必要なものとは～
- ③ 廃棄される運命にある食品の未来についての提案 ―食品ロスを考える―
- ④ フリーズドライが作る未来
- ⑤ 災害と外国人



「体験グローバル」・「スーパーグローバル」 タイ研修報告

今年1月に行われたタイ研修に参加した4年生10名が、研修の活動報告と研究内容の発表を行いました。活動報告では、チュラーロンコーン大学附属校での交流や国際貿易振興機構（JETRO）バンコク事務所、ホーコス・タイランドでの活動内容が報告されました。今回のタイ研修では2チームに分かれて、それぞれが研究を進めてきました。まずは1チーム目の研究報告として、「タイの女性に学ぶ ～仕事と家庭の両立～」の題目で発表がありました。次に2チーム目の



研究報告として、「日本の中小企業を ASEAN へ」の題目で発表がありました。どちらの発表も実際にタイ現地で調べたからこそわかる内容をもとに研究を進め発表していました。

イオン1%クラブ 「アジア ユースリーダーズ」報告

「イオン1%クラブ アジアユースリーダーズ」は、イオンが主催してアジア各国の高校生が一堂に会し、開催国の社会問題をテーマに、視察や専門家によるレクチャー、生徒どうしのディスカッションと合意形成を通じて、解決に向けた論理展開を磨くことを目的に行われています。今年度は4年生4名、5年生1名の5名が当校から参加しました。報告の中では、「英語というツールで世界の人々と交流することで友達ができ視野が広がる」こと、「そこに自分が輝ける場所がきっとある」こと、「意見を言うことを恐れるな」ということ、そして「チャンスをつかめ!」というメッセージを語ってくれました。発表はすべて英語で行われました。



広島県「グローバル未来塾 in ひろしま」報告

「グローバル未来塾 in ひろしま」は、「国際平和拠点ひろしま構想」の取り組みの一つとして、高校生世代に、将来、国際平和を希求し世界的に活躍できる人材を目指してくれるよう、将来への第一歩を踏み出すために、英語力を養い、核軍縮や紛争解決などの国際的課題を学ぶ広島県が行っているプログラムで、今回が第3回目となります。今年度は4年生1名、5年生2名がこのプログラムに参加しました。この成果発表会では、彼らが経験した計9回の国内研修、模擬国連、英語研修での様子を語ってくれました。また、海外研修の様子として、フィリピンでの活動内容や現地校格子柄との交流の様子、広島県の成果発表会での彼らの提言について語ってくれました。



「提言 I」課題研究発表

5年生の選択科目である「提言 I」は、昨年4月より体験グローバルで学習した課題研究の方法を活かして個人で研究課題を進めてきました。研究は、研究分野やテーマが似た数名でグループを作り、それぞれのグループに担当教員がつくかたちで研究の進捗状況を定期的に報告し合い、生徒や教員から意見やアドバイスをもらいながら大学のゼミのようなかたちで研究を進めてきました。発表会ではその中から4つの研究が「提言 I」の代表として発表を行いました。研究題目は以下の4つです。



- ① 「シルバー民主主義」の是非
- ② 長期入院中の高校生への学習支援 — 「学びたい」の声に応えるために—
- ③ 人工知能が私の生活をいかに楽にするか

④ 食糧問題の解決に向けて

「提言 I」・「スーパーグローバル」上海研修報告

昨年 6 月末から 7 月初めにかけて行った上海研修に参加した 10 名が、研修の活動報告と研修を通してまとめたグループ研究の発表を行いました。活動報告では、Skype 交流を含めた事前学習と上海での大同中学の生徒とのディスカッションの様子、上海住友商事訪問、日本国在上海総領事館表敬訪問などについて話してくれました。グループ研究では次の 2 つの研究についての発表がありました。



① The effective use of food waste

② Japanese student enrollment at foreign universities

活動報告は日本語で、2 つの研究発表は英語で行われました。②の発表については昨年 12 月 15 日に開催された SGH 全国高校生フォーラムにてポスター発表を行っております。また、①の発表は 3 月 23 日に開催された SGH 甲子園にてポスター発表を行います。

ご講評

運営指導委員である日本体育大学児童スポーツ教育学部の角屋重樹先生、教職員支援機構次世代型教育推進センターの大杉昭英先生、岡山理科大学の岡本弥彦先生、広島大学大学院教育学研究科の築道 and 明先生からご講評をいただきました。角屋先生からは語学を使って世界に視野を向けた提言ができていることを高く評価していただくとともに、プレゼンテーションをする際の注意として、サンプルや調査対象、そのデータなどの処理をどうしたかなどの手続きを明確にすることで十分に世界に通用するものになるというご意見をいただきました。大杉先生からは、探究活動を進めるにあたって必要な力が 3 つあるが、1 つ目の他者とコミュニケーションをとる言語の運用能力と 2 つ目のコンテンツを作る能力については高く評価していただきました。3 つ目の力として、答えが定まっていない問題に対して自分で定まった答えを作る力をこれからしっかりとつけてほしいという意見をいただきました。岡本先生からは、2 つに絞ってお話をしていただきました。1 つ目はこの取り組みが SGDs の一翼を担う可能性を秘めているという事、2 つ目は単なる調査や情報収集にらず自分の考えを持って待つメタデータを分析・整理しているという事でした。解決には到達しなくても提言ができている、その提言から新たな課題が見えてくるはずで、永遠にその繰り返しになるかもしれないがこれからも続けてほしいという励ましの言葉もいただきました。築道先生からは、自分が校長のときには SGH 1 年時に 2 年生であった生徒たちが 5 年生になり、当時はあまり上手でなかったプレゼンテーションも立派に行うようになり、その成長した姿に感銘を受けられたことを話されました。また質疑応答でも、1 年目にはあまり出なかった質問が、今回は即座にたくさんの質問が出て、それに対するフィードバックも適切であった事にも高い評価をいただきました。このような質疑応答を続けていくことが合意形成を図るうえで重要であるというご意見もいただきました。